

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院・教育委員会等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 常葉大学大学院 学校教育研究科
	事業名： NITS・常葉大学教職大学院コラボ研修プログラム
	研修等名：【NITS・常葉大学教職大学院コラボ研修】 教師自身の「主体的で対話的な学びの場」となるコラボ研修 「令和の日本型学校教育の実現に向けた教育改革」
	開催日時：令和 7 年 1 月 21 日（火）14 時～16 時 30 分 開催場所：常葉大学（静岡県静岡市駿河区弥生町 6 番 1 号） 参加人数（総数）と参加者の属性：（51 人）一般教員 20 人、行政職員 5 人 大学院生 18 人、大学教員 7 人、大学職員 1 人

目的：

- 参加者にとって「主体的で対話的な学びの場」となる研修を目指す。
「教師自身の『主体的で対話的な学びの場』となるコラボ研修」をテーマとし、これまで行ってきたコラボ研修を再構築する形で実施する。グループワークを活動の主軸とし、参加者を主語とした研修を目指す。
- 参加者が、自身で取り組んでいる教育活動の意義や自己の役割等を見つめ直すことができるようにする。
戸田市の教育長であるとともに中教審の数々の委員を歴任する戸ヶ崎勤氏を講師として招き、令和の日本型学校教育の在り方やそれに関する取組の具体について学ぶ中で、教員（や行政職員）としての自己の在り方を見つめ直す場とする。

内容：

- グループの顔合わせ
開会行事終了後、研修への参加目的別に分かれた 5 ～ 7 人のグループで、研修目的や研修に期待すること等を交えながら互いに自己紹介を行った。
- 講師の講話
「令和の日本型学校教育の実現に向けた教育改革」というテーマで、戸田市教育委員会教育長の戸ヶ崎勤氏の講話を聞いた。新しい学習指導要領の策定に向けて中央教育審議会でも議論されている内容や戸田市教育委員会でも取り組んでいる施策など、学校教育に関する先進的な情報を得ることができた。
- グループ協議
講師の講話を受け、研修への参加目的に基づいて構成されたグループごと、令和の日本型学校教育の実現に向けた教育改革の在り方について、自身の教育活動と関連させながら情報交換、意見交換を行った。
- グループ発表
グループで話し合ったことを発表した。戸ヶ崎氏の講話から得た新たな学びに関する話題はもちろんのこと、令和の日本型学校教育の推進者としてこれから何をなすべきかなど、教員としての自分自身の在り方に触れる意見もたくさん出された。
- 講師の講評
グループ発表を受け、戸ヶ崎氏が講評を行った。全グループの発表に対し、氏としての考えを話してくれただけでなく、補足説明等も丁寧に行ってくださった。参加者からは、「講評が分かりやすく、腹落ちした」という意見が出された。講師講評の後は閉会行事を行い、研修を閉じた。

成果：

- 令和の日本型学校教育についての理解が深まった。
（参加者の声）・令和の日本型学校教育について、実現されている方の理念を聞くことができました。
・国の動きや戸田市の先進的な取り組みなどが分かり、大変勉強になりました。
- 参加者が自分自身の教育観等について見つめ直す場となった。
（参加者の声）・様々な取組を見聞きする中で、自分の立場から何が出来るか考えることができた。
・学校や社会の変化にどう対応していくか模索する日々ですが、指針が見えてきました。
- 講師の話をもとに、参加者の主体的な学びを構築することができた。
（参加者の声）・自己紹介から始まり、グループワーク等主体的に取り組む大切さを感じました。
・戸ヶ崎先生のお話がとても素晴らしかった。主体的に学べてよかった。
・考えを交流することができ、主体的な参加につながった。

「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

1 教員として進むべき方向性を確認することの意義

今回は、第 12 期中央教育審議会やその分科会、文部科学省の有識者会議等、実に多岐に渡る教育行政の委員を歴任する戸ヶ崎氏が、その講師であった。教育行政のトップランナーであり、現在の学校教育の舵取り役と言ってもよい氏の話は、参加者にとって、これから進むべき道を確認する上で、非常に有意義なものとなった。アンケートの研修への参加目的の達成度の高さからもそれがうかがえる。

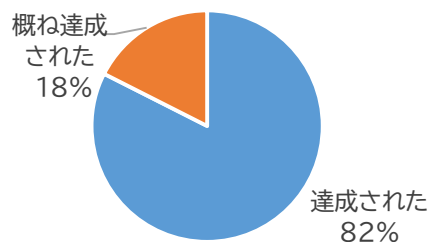
2 双方向型の研修のよさ

今回の研修では、講師の戸ヶ崎氏が非常に丁寧に講評をしてくださり、参加者の好評を得た。右のように講演についての評価が高いが、講評の時間を含めてのことだと思われる。また、本研修自体も、参加者が一方的に話を聞くものではなく、グループ内で自己紹介をしたり自ら考えを述べたりするなど、自分自身のことを語る場が設定されている。この双方向型のスタイルにより、参加者の主体的な学びを引き出すことができているのではないかとと思われる。「講演を聴いた後のグループワーク、その後の講評、この流れが大変学びになった」という参加者の声もあった。

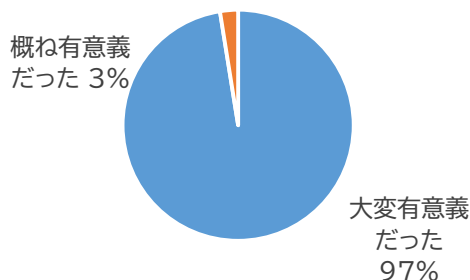
3 魅力ある講師を呼ぶことの意義

参加者の意見に、「戸ヶ崎先生の知識や経験の深さはもちろん、何よりもその温かい人柄がとてもよく伝わって来ました。おかげで、尊敬の念を持ちながらお話を聞かせていただけました。」というものがあった。本研修がとても有意義なものになったのには、講師の人間的な魅力によるところも大きいのではないかと感じる。

研修への参加目的の達成度



講演について



アイデアや工夫したこと：

1 研修への参加目的を事前に聴取し、研修実施後はその目的に応じて振り返りをしてもらったこと

本研修に参加する参加者の意識を高めるとともに、主催者として参加者のニーズを確認するため、事前に一人一人から研修への参加目的を聴取した。また、その状況を研修実施前に講師にも伝え、講話に生かしてもらえようにした。参加者の研修への参加目的は下記の通りである（大学教員分は含まず）。

- (1) 令和の日本型学校教育の具体を知りたい。(10 人)
- (2) 日々の授業等の教育活動に生かしたい。(7 人)
- (3) 行政による教育改革について学びたい。(6 人)
- (4) 組織のリーダーとしての在り方を考えたい。(10 人)
- (5) 教員（又は行政職員）としてキャリアアップを図りたい。(13 人)

この参加目的の達成度については、上図に示したとおりである（アンケートの選択肢としては、「あまり達成されなかった」、「達成されなかった」というネガティブなものもあったが、選んだ参加者はいなかった）。

2 参加目的別に分けたグループによるグループワークを活動の主軸としたこと

グループワークを活動の主軸にし、講話もグループワークの中に組み入れる形にした。それにより、グループとしての親密度が高まり、講話後のグループ協議にもスムーズに入っていくことができた。また、同じ参加目的の者でグループを組んだことにより、グループ協議でもつつこんだ話し合いをすることができた。加えて、グループでの話し合いを確認しながら記録するツールとして、円形ホワイトボード（えんたくん）を用いた。これは、グループ発表の際に、全体への提示資料としても活用できた。



グループ協議の様子



グループ発表の様子



グループ協議の記録